

環境レポート（検討項目及び手法編）に対する有識者からの意見

	番号	頁	内 容
120	追加 - 01	P114	平成19年の環境省のレッドリストに基づくならば「スナヤツメ」も「メダカ」も掲載されていません。評価するのはスナヤツメ北方種、南方種、メダカ南日本集団ではないのか？
121	追加 - 02	P114	学名も、スナヤツメ類、メダカ類、スジシマドジョウ類などが誤りである。和名もそれらを含めて、他種も適切に表示する必要がある。
122	追加 - 03	P114	ドンコはハゼ科ではない。
123	追加 - 04	P99	先日の水機構の環境レポート説明会で水質シミュレーションモデルは一般的なモデルを用いたとの説明であった。しかし、万能モデルは無いのでどのようなモデルを用いたのかを第一回の意見聴取で質問したのである。用いたモデルの名称、適用限界を明らかにして頂きたい。
124	追加 - 05	P99	予測にあたっては非出水時と出水時に分けて行うとしているが、同じモデルで実施したのかが不明である。本川に流入する負荷をどのように予測したかの記述が無い。小さな河川では、夏季夕立豪雨による急激に増大した雨天時流出負荷により、有機物負荷による酸素吸収により魚が死亡することが起きる。シミュレーションの水質項目について、水温、SSのみに限定することは問題である。
125	追加 - 06	P37	本事業で水質を評価する対象としてダム湖と河川があり、有機物指標としてダム湖では、CODが使われ、河川ではCODが指標となっておらず指標はBODを用いている。河川と湖沼の共通有機物項目として、TOCを用いるべきである。
126	追加 - 07	P40, 46	西平ダムのSSは長良川のSSを大きく上まわっている。導水した際、長良川のSSがどう変化するのか。又、その時水生生物に与える影響を検討すべきである。
127	追加 - 08	P39, 45	岡島橋の水温と藍川橋の水温を比較すると、下の水温が岡島橋の方が2～3度低くなっている。水生生物にとって2～3度の違いは致命的になる場合があるのでその予測をして欲しい。
128	追加 - 09	P99	環境基準・水質汚濁防止法は最低の基準であり、それを満たせば良いものでもない。長良川の水質等が現状を保つことが必要である。

意見聴取の対象者一覧（敬称略）

名前	所属機関	役職	分野
足立 孝			建築家
大橋亮一	長良川漁業協同組合	副組合長	漁業
粕谷志郎	岐阜大学 地域科学部 地域生活学科（地域環境講座）	教授	環境生態学
神谷浩二	岐阜大学 工学部 社会基盤工学科	准教授	地盤工学
河村三郎	岐阜大学	名誉教授	環境水理学
古屋康則	岐阜大学教育学部	准教授	魚類生理生態学
田島正廣			農業土木
富樫幸一	岐阜大学地域科学部	教授	地理学
永瀬久光	岐阜薬科大学 薬学部	教授	生物系薬学
新村安雄			魚類研究家
向井貴彦	岐阜大学 地域科学部 地域政策学科（地域環境講座）	准教授	魚類生態学
村上哲生	名古屋女子大学 家政学部	教授	陸水学
山内克典	岐阜大学	名誉教授	生物学
山下純司			鵜匠
山中 茂	長良川漁業協同組合	副組合長	漁業